

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

June 2016

Écoutez Bien Vol.34 No.379

6

江戸時代の立川が面白い



表紙の人／フロム中武三代（曙町）

フロム中武リニューアル

『心機一転』

フロム中の新しい挑戦が始まる

北口大通りに面したフロム中武が、5月26日にリニューアルオープンする。昭和37年に中武デパートとして開店、昭和59年にはフロム中武に改装。平成20年3月号のえてびあんのインタビューに答えて、三代目の現社長 中野裕司氏はこう語っている。「先代がリニューアルした当時は、都内に出かけなくても立川で買い物ができるような商品をと考えていたのですが、立川のお客様は同じ商品を買うにも電車賃を使って青山二丁目まで行く。付加価値を買いに行くんですね。付加価値を求めするのはいいのですが、それではうちのコンセプトが成り立たない。」ルミネや高島屋、伊勢丹のような大手とは規模が違う、それなら形を変えようとしてできたのが、今までの「フロム中」だ。立川ジモティーには懐かしくもあり、オバサンでも入りやすい店として繁盛してきた。マニアを集めトレーディングカードの店なども誘致し、駐輪場の横におでん缶の自動販売機を置いた。立川を秋葉原に次ぐ第二のサブカル聖地に仕立てたのもフロム中だった。

平成28年新生フロム中武へのリニューアルでは、フロム中の特徴でもあった細かいお店の集合体というイメージは払拭される。フロアごとの展開と言えらるだろうか。地下にスーパーの「マルエツ」。駅に近いスーパーは市民の願い。多くの需要があるに違いない。1階は飲食店と物販店。通りに面したガラス面はほぼ全部が飲食店に。「カフェ・ベローチェ」や「ファーストキッチン」はそのままに焼き小籠包のテイクアウト、「いきなり!ステーキ」「富士そば」が入ってくる。フロア内部にはシーフードグリルを中心にしたレストラン「ザ・ファームグリル&バー」、再びの登場となる「銀だこ」。2階に上がるとフロアの半分は靴屋になる。他は衣料品、服飾雑貨の物販店。3階も2階と同じコンセプトだが、立川商圈に店舗のなかったニトリが足場を据える。小商圈での小型店舗「ニトリデコホーム」だ。4階には100円ショップの「ダイソー」、5階は「サカゼン」、6階の半分は登山、アウトドア用品の「好日山荘」。グッズにこだわるシニアがターゲット? そしてそのフロア残りの半分がフロムの真骨頂、サブカルが入ってくる。今回は何を誘致してくるのかと聞えば、「アニメイトさんが抜けてしまい、ポークスさんは秋葉原に全力を注がれるとのことで、現在決定しているのはホビーステーション(カードゲーム)。その他はアニメグッズやクレーンゲームなどとなる予定です。」7階は全フロアにスポーツのGALLERY・2(ギャラリー・2)。

祖父は初代立川商工会議所会頭 中野喜介氏。先代の跡を継ぎ、好奇心旺盛に、感覚で勝負してきた裕司氏。ブログの中などでは「社長、継続は力なりですよ」と言われ、がんばってキャッチコピーを自分で考え作り続けてきた。リニューアルに際してのキャッチコピーは『心機一転』。新しくなったフロム中オープンで、北口はまた変わってくるのか?



昭和58年秋に撮影 (写真提供: フロム中武)



昭和59年1月撮影 (写真提供: フロム中武)



昭和59年1月フロム中武屋上 (写真提供: フロム中武)



昭和59年1月フロム中武屋上から撮影 緑川沿いに映画館が並んでいる (写真提供: フロム中武)



平成27年4月撮影



平成28年4月撮影

江戸時代の立川が
おもしろい!

大消費地が近いって、今と同じじゃない?

古文書を解読すると、昔の人が動き出す。
国文研アーカイブス、最高!

多摩川の鮎、お鷹の道

武蔵小杉辺りに小杉御殿というのがあって、江戸時代の本当に初めの頃、将軍が鷹狩りに来たときの休憩所になっていました。その時に季節が合うと鮎を上納する。それが享保年間、吉宗の時に「上ヶ鮎御用」という制度になる。吉宗が子持ち鮎を好きだったところから始まっているのですが、年間に1100尾くらいかな、それを何回かに分けて上納しなさいというわけです。多摩川の上流から中流にかけて、もちろん立川も入りますが、御用請村という「上ヶ鮎御用をやりますよ」と手を挙げた村が組合を作って、鮎を漁獲し江戸へ運ぶというシステムがあったのです。

この時代に川柳が流行りましてね、『俳風柳多留』の中にね、『玉川は江戸に出がけに米をつき』という川柳があるのです。これを見た時、「これだっ!」って思ったわけです。まさに上ヶ鮎御用を詠んだ句だと思ったのです。『多摩川周辺の人は江戸へ出てくるとすぐ米を搗いているよ』ということなのですが、鮎とどう関係があるのか。上ヶ鮎御用というのは、川っぺりに生け簀箱を作って漁獲した鮎を囲っておいて、指定の期日前夜に鮎籠に入れて、それを馬荷にして、鮮度が落ちないよう急いで江戸へ向かうのです。届け先は、江戸城の「御春屋」という施設です。幕府の賄方の食糧倉庫ですが、そ

んな様子を江戸の人々は見知っているわけです。多摩川から獲りたての新鮮な鮎を運んで、一刻も早く御春屋に届けようという姿を、江戸の人がちょっと茶化して詠んだ句なのですね。

江戸十里四方、半径20kmくらいの内側は、将軍の鷹場です。これを御拳場といいます。鷹狩をする時、グローブみたいなものをつけるでしょう? 拳を握って鷹を据えて放す。なので拳、御拳場といいます。この御拳場の外側に御三家の鷹場があります。だいたい北側に紀州家、浦和辺りまでですかね。北東側に水戸家。まさに常磐線沿線と言ったらいいでしょうか。西側は尾張家の鷹場で、立川市はまともに入っています。南側は鷹の訓練場。幕府の鷹匠が来て鷹の訓練をします。武蔵野市と三鷹市の間くらいが御拳場と尾張家の鷹場の境目で、三鷹という地名も鷹場の境杭に由来しています。ですから国分寺や立川の鷹場には将軍は来ていないですね。

江戸時代の立川

武蔵野の開発は1660年代の寛文の時期と、その後は享保改革の時とあるのですが、享保改革の時にいわゆる武蔵野新田が拓かれていきます。この辺りは江戸という大消費地があり、とても立地がいい。馬に荷物を乗せて、あるいは車力で、頑張れば日帰りできる距離です。立川近辺がぎりぎりだ

とは思いますが、江戸向けの野菜だとか炭・薪などを売ってね、行ったらそのまま空手で帰ってくるわけではなくて、今度は下肥を調達して積んでくる。地元で肥料にするためですね。糠なども仕入れてきて肥料にする。

下水道が完備される前は、私たちが汲み取り式でしたよね。その場合は汲み取ってもらう方がお金を払う。江戸時代は逆でした。長屋などのある一画に共同便所があって、家主っていうんですが落語に出てくる大家さん。大家さんが汲み取りの権利を、立川辺りから来たある百姓に売るわけです。その農民は、大家さんが管理する一画の汲み取り独占権を持っていて、江戸へ出てきた時に野菜を売って、帰りに汲み取りして下肥を積んで立川辺りに帰る。東側は水路が発達していたので船で運びましたが、武蔵野は馬か車に積んだのでしょうか。まさに有機野菜ですよ。

武蔵野の雑木林は、今のように背の高い林ではなくてもっとずっと背が低かったといえます。江戸時代の武蔵野の林相は、クリとマツ、そして雑木と呼ばれるクヌギやコナラなどの落葉広葉樹が中心でした。クリは実が食用になるだけでなく、腐りにくい建築材としてよく利用されました。マツと雑木の関係は面白くて、落ち葉がとてもいい肥料だったので、当時の農家ではきれいに集めて堆肥にしましょう。すると、土地が痩せて、今度は養分が少なくても育つマツが優勢に

太田尚宏氏

太田尚宏氏：国文学研究資料館 准教授。専門は日本近世史。東京学芸大学大学院教育学研究科社会科専攻(修士課程)を修了後、東京都北区の北区史編纂調査会編纂専門員、公益財団法人徳川黎明会徳川林政史研究所研究員・主任研究員を経て、2012年4月より国文研。武蔵野を含む江戸周辺の地域編成に関する研究や漁業史・林業史などの産業史研究に従事する。著書に『幕府代官伊奈氏と江戸周辺地域』岩田書院、共著として『森林の江戸学』東京堂出版、『江戸時代の古文書を読む』全10冊東京堂出版、『江戸文化の見方』角川学芸出版など。

なります。マツは脂が多くて燃料としては最適で、細枝を伐り払って薪や炭にして、江戸へ運んで売ります。そしてまた、ちょっと落ち葉掻きをしない場所ができると、そこには落葉広葉樹が育って、たくさんの落ち葉を出す。そんな風に枝木や落ち葉を使いながら雑木林を維持してきました。今では落ち葉や枝木を堆肥や燃料として使わないようになったため、土壌の富栄養化が進んで、落葉広葉樹の次の段階となるシイ・カシなどの常緑広葉樹が繁茂して、背が高く立派な林になってしまったというわけです。

アーカイブス

どうしてそんなことがわかるのかという話です。それは地域に資料が残っているからです。古文書とか紙に書かれたものがある。今から少し前なら写真とか映像とかでもいい。そういったものを丹念に調査して一般の方にも見ることができるようになるのが、国文研のアーカイブスの仕事です。

私は大学も多摩地域だったので、土地勘があるということで、この地域の文書をおもに担当しています。まず古文書を整理して目録を作ります。国文研に来て最初に担当したのは、多摩市の石坂家文書でした。中和田村、今のモノレールの大塚・帝京大学駅辺りです。浅井という旗本の領地、旗本というのは大名になれていない幕臣のことです。大名は1万石以上、1万石以下で将軍にお目見えできる人たちを旗本と言うのですが、浅井家は貧乏で、領地からの年貢の前借りは当たり前、村役人たちを保証人にして江戸の町人から借金を繰り返すありさまで、挙げ句の果てには裕福な旗本の家を転々として、地元では「居候地頭」と呼ばれていました。殿様が居候地頭だと、領民も肩身が狭いんですね。露骨に差別されることもあって、和田の領民が地頭のために立ち上がり、財政プランを立てて交渉しにいくなんていうこともあったようです。そういったことが文書からわかります。

国文研が多摩地域に移転してきて、地域

の方にも理解していただくということで、立川市の教育委員会に招かれて公開講座などもやりました。今は、三多摩公立博物館協議会の方たちと一緒に、研修やワークショップなどを行っています。こうしたネットワークができていないと、例えばお蔵が取り壊されるということがあっても情報を得られない。文書が入っているかもしれないお蔵が壊されるという事態はいつでも起き得るんです。実際に立川でも砂川八番に須崎さんというお宅があって、そのお蔵が取り壊される寸前に立川歴史民俗資料館に連絡が入り、筑波大学の白井哲哉さんたちのグループが大急ぎで調査をしたということがありました。古民家園に移築された三階建の蔵で、三階と二階に資料が残っていて、それを整理するというので、私も呼ばれて手伝っています。立川市では、市史編纂の事業が始まりました。そこでも文書の所在把握や整理は、重要な仕事と位置づけられています。

砂川村は大きな村で、全体をみる名主さんは砂川さん。村の中がいくつかの組に分かれているのですが、はじめは八番までで、幕末には十番まで。須崎さんのお宅は八番組の組頭だったのです。最終的には名主が全部を束ねていたのですが、その組の中の財政というのはよくわかっていなかった。それがこの須崎さんのお蔵から文書ができて、徐々にわかってくるようになりました。組頭は、本来名主がやるような仕事の下請けを全部やっていたようですね。例えば、火事になった時の事務処理。1軒焼けただけだったら名主に言うだけでいいよねって。あまり大事にしないということですね。でも類焼しちゃったら、これはもう代官所へ訴え出るしかないよね、という細かい取り決めまでやっていたり。幕末の砂川八番は28軒ありましたが、そのうち姉さん女房世帯が7組もあるんですよ。こんなことも面白いでしょう? 砂川は女性にとって結構住

みやすい村だったようです。理由のひとつには、養蚕と織物をやっていたので、女性の労働力が必要だったこと。ですから御当主の姉妹や娘が奉公に行かなくていいわけです。織物は村山緋を作っていて、子室に恵まれるという群馬県の産泰社の講を組織して、奥さん方の代表が年に1回お参りに行くというようなこともやっていました。相対的に女性の地位が高かったのでしょうか。こうした地域のもっているアイデンティティとか個性とかをきちんと記録していくことは重要ですよ。

古文書もそうですが、現代文書もアーカイブスとして大事です。行政文書は残ると思いますが、民間の文書が残っていない。戦前のもので民間のものが危ないです。紙も悪いからボロボロになっていたりするんで、捨てられてしまうんです。地域のことを知る重要な手掛かりになるんですけれどね。ところで、えくてびあんの文書管理はどうなっているんですか? できあがった冊子はきちんと保管されているのでしょうか、1冊ができるまでに写真だって、原稿だって、そのひとつを選ぶまでに何百枚ってあるはずですよ。えくてびあんの眼を通して観てきた「立川」。絶対いい記録になるはずですよ。いやあ、その保管ってどうなっているのか、興味あるなあ。





左から 若月正臣八番組自治会会長、安藤太郎立川市議会文教委員会委員長、清水庄平立川市長、須崎八朗立川市議会議長(須崎家御当主)、小町邦彦教育長、豊泉喜一立川市文化財保護審議会会長

砂川の活動的な気質は、どうも今に始まったことではないらしい。そういえば、古民家園の小林家も「質屋」という屋号だったのだとか。きっと裕福な村だったのだろう。

砂川の活動的な気質は、どうも今に始まったことではないらしい。そういえば、古民家園の小林家も「質屋」という屋号だったのだとか。きっと裕福な村だったのだろう。

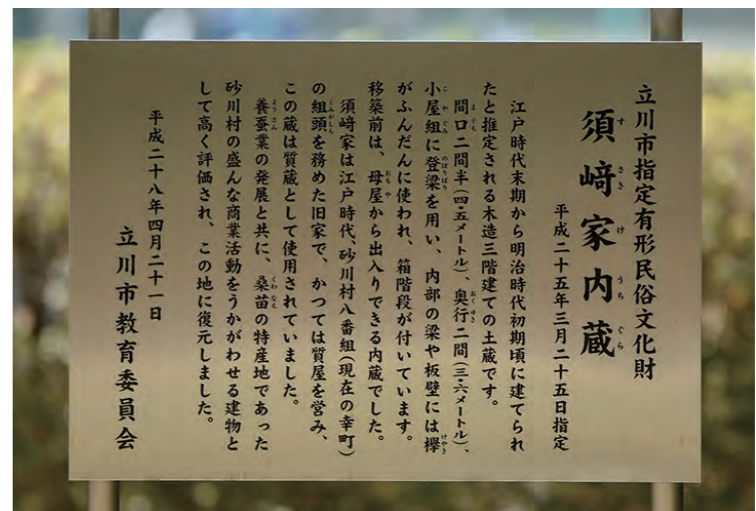
幸町にある古民家園に、立川市指定有形民俗文化財『須崎家内蔵』が移築復元、公開された。現況は外蔵になっているが、もともとは母屋から直接出入りできる内蔵だった。形の復元もさることながら、蔵にしまわれていた五千点におよぶ古文書などの資料は、旧砂川村の暮らしを知る大きな手掛かりになっている。

立川は蔵の多い街だ。五日市街道を行くと、街道に面して蔵が連なる。しかしそのほとんどが二階建てで、三階建ての蔵はこの須崎家内蔵と元名主の砂川家の蔵だけだという。他所の地域でも三階建ては珍しい。柱や梁だけでなく壁材などにもケヤキが使われていて、そういう意味でも貴重な蔵だ。文化財として復元された蔵は、見学に来た人が三階建てだとすぐわかるように設えている。

須崎家は八番組の組頭だったが、一般日本史でいうところの、名主、組頭、百姓代という地位でいえば、名主と同じような役割をしていたらしい。当時質屋を営んでおり、古文書によれば百両、五十両という金額を他の地域の人に貸していた。五十両がどんな金額かといえば、浅川や残堀川といった中級河川の土橋がかけられる金額で、資金が豊かでないといけない業種だったようだ。今後はその資金の調達ポイントが研究課題になっていくそうだが、村騒動も起きていないことや各戸に蔵があることなどからも、情報やうまくキャッチして、なにかしらの特産品による流通がうまくいっていたのではと推測される。

須崎家内蔵 公開
二〇一六年四月二十一日
古民家園に須崎家内蔵が移築復元された。
温故知新の大切な拠点だ。

砂川村の暮らしが見えてくる



立川市指定有形民俗文化財 須崎家内蔵

平成二十五年三月二十五日指定

江戸時代末期から明治時代初期頃に建てられたと推定される木造三階建ての土蔵です。間口二間半(四五メートル)、奥行二間三メートル、小屋組に登梁を用い、内部の梁や板壁には樺がふんだんに使われ、箱階段が付いています。移築前は、母屋から出入りできる内蔵でした。須崎家は江戸時代、砂川村八番組(現在の幸町)の組頭を務めた旧家で、かつては質屋を営み、この蔵は質蔵として使用されていました。養蚕業の発展と共に、桑苗の特産地であった砂川村の盛んな商業活動がうかがわれる建物として高く評価され、この地に復元しました。

立川市教育委員会

えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。
今月は 錦町・柴崎町・立川市外 のお店です。

錦町

- パン工房 グラティア.....512-8667
- そば処 高尾亭.....522-2710
- Natural Food Restaurant シェイなほ529-5921
- エスランテ ロズまり.....529-3037
- Garden & Crafts Cafe 0120-412-877
- 至誠学舎立川.....527-7734
- 至誠ホーム.....527-0031
- 至誠介護相談センター.....527-0321

柴崎町

- 諏訪神社.....522-2968
- 毎日新聞社グループ(株) 毎日広告社 522-6121
- パスタビーノ はしや.....521-3386
- 高島ビル.....526-0111
- Hair Room MOON ZETTON 523-0961
- 南武堂剣道具店.....527-0197
- ビジネスホテル 小沢屋.....523-0388
- おしゃべりカフェ トーク・スペース527-1636
- ESBI 立川南口店.....526-2947
- タイアヨタヤレストラン.....595-7295
- (株) 一心堂.....527-3777
- すがの歯科.....540-2675
- 紙匠 雅.....548-1388
- あすなろクリニック.....529-2756
- ソレール .Na.....548-8788
- ピストロすぎ浦.....525-9929
- 入船茶屋.....524-6266
- チーズフォンデュ&欧風料理 クトロ528-2983
- 串揚割烹 トントン.....524-4521
- Pasta Frolla 立川南口店 540-8033
- レンタルスペース&ギャラリーカフェ夢工房 843-7818
- 不動産 コマツホーム.....525-5811
- 芹沢ガラス店.....522-3065
- かみゆい処 わ.....522-8202
- ファッションハウス ホマレヤ525-2788
- ホテル ほまれ.....523-0588
- ヘアサロン オオヌキ.....528-0809
- 中国四川料理 山城.....512-8356
- 酒歩 たから.....528-1510
- 服地・洋裁材料 藤レディース 528-5101
- 純中国料理 北京大飯店.....522-6393
- リサイクル着物 着楽堂.....523-9702
- 天婦羅・うなぎ 良銀.....522-6702
- レンタルボックス きらら.....522-3913
- 生活雑貨 EAST END.....523-9636
- 特むし銘茶・海苔 菊川園.....526-2035
- ジョイフルプラザ.....0120-29-2775
- めん心 堤屋.....525-6602
- hoccori* café.....595-8379
- 立川わかば整骨院.....526-8518
- (株) 立川紙業.....527-6111
- 中華小皿料理 得得屋.....528-1060
- Fashion You Me.....523-1640
- 手挽せんべい 雷神堂.....521-5705
- 石原薬局.....523-4067
- B級食堂 相模屋.....525-9478
- ティーツー.....525-6366

立川市外

- 昭島市 ECO'S 昭島店.....546-3710
- 武蔵村山市 中国料理 菜.....561-7233
- さえき大南食品館.....561-7666
- 国分寺市 パンの店 fermata.....534-3334
- 小金井市 ONLY FREE PAPER

jorakugajo

真如苑提供番組〈常楽我浄〉

スカパー! : 529ch

スカパー!で放送の常楽我浄は
スマートフォンアプリ「ivy」(無料)で視聴できます。

J:COM 多摩 : 111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

平成28年度夏巡業 大相撲立川立飛場所

夏の立川立飛場所(勳進元:立飛HD)を控え、町田場所に行ってきました。間近で見るとこんなに迫力があるんだ〜と改めて感激。この感動が立川にやってきます。

【立川立飛場所】

- 平成28年8月4日(木)8:00開場 公開稽古
- 10:30 人気力士とちびっ子の稽古
- 11:00 序二段・三段目・幕下取組 相撲甚句 初切 檜太鼓打分
- 13:00 十両土俵入り 髪結実演 十両取組
- 14:00 横綱綱締実演 幕内・横綱土俵入り 幕内取組 弓取式
- 15:00 打ち出し(終了)

5月26日よりチケットが発売されます。
チケット予約は、03-6300-5545 です。
ネット予約はhttp://www.shopper.jp/c
(ショッピングチケットサービス)まで。



開校説明会で 青谷典子さん



中央が校長先生の雨滝先生 楽しい実験のパレードでした

ダ・ビンチ サイエンス教室 始まります

サイエンスひとネット主催の科学教室「ダ・ビンチ サイエンス 教室」が5月から開校します。科学大好きなお子さんや特別な才能をもっているお子さんたちにピッタリの講座です。なにしろ先生がすばらしい!校長先生は昭島市の通級指導教室で活躍される雨滝洋介先生。立川の中学校で「無線部」や「サイエンス部」の顧問を務めてきた岡村幸保先生も主宰者のひとりです。各回その世界の超有名人が登場するのも魅力のひとつ。コラボする企業や団体も立飛HDや昭和第一学園高校、JAXA、東京大学、学芸大学などなど、個人的にはなかなかご縁がないところばかりです。代表の青谷典子さんは障がい児専門の音楽あそび教室を主宰していらして、青谷さんの熱意が多くの方を動かししました。入学金・受講料はかかりますが、一度体験されるとその価値はよくわかります。お問合せ先:090-2911-4659(青谷さん)

お疲れさまでした

錦町のアート印章。4月で閉店されました。えくてびあんでは、はんこ屋さんとしてではなく、浅倉さんをアーティストとしてご紹介したことがあります。皆さんもご覧になったことありませんか?店頭飾ってあった手作りの粘土細工のオーケストラ。ご趣味の範囲を超えた油絵や奥様が撮影された写真など、閉店前のお店で展覧会。その時にお二人の写真も撮らせていただきました。これからはアーティストとしての人生になるのかな?

身近にクラシック音楽を

国立音楽大学卒業生が各所で活躍しています。パレスホテル立川では、毎週土曜日の17時30分から、19時からの2回、国立音楽大学卒業生による20分間のライブミニコンサートを開催中。場所は1階のラウンジです。ピアノや声楽など、やわらかな音色にゆったりとした時間の流れを楽しむことができます。ぜひお出かけください。



鶴竜 白鵬



琴奨菊 稀勢の里



嘉風 豊ノ島

舞台は世界!

来る6月18日(土)14:00〜、都立立川国際中等教育学校 第1アリーナで、立川青年会議所主催の講演会が開かれます。講演者は、牧浦士雅氏。1993年生まれの牧浦氏は13歳で単身渡英。挑戦を続け、アフリカ、主にルワンダで国際協力機関と農民を繋げるプロジェクトを牽引してきました。現在も「真の国際協力」をテーマに活動中。TED『世界の若者12人』に選出された牧浦氏。立川の中学生にどんな話をしてくれるのでしょうか。

立川市内の中学生が対象ですが、先生方や保護者の方も聴講可能だそうです。詳細についてのお問合せは、公益社団法人 立川青年会議所 事務局 042-527-1001へどうぞ。なかなかない機会です。最近の若者は世界に出て行かないそうですが、広い視野を持つことはとても大事ですね。

コトブキヤが 帰ってきました!

大幅リニューアルというか、もう別物になって帰ってきたコトブキヤ。サンサンロードに面したすてきな建物に、コラボカフェ第一弾『ダンボーカフェ』も登場しています。おいしいお店もさることながら、立川発「世界のコトブキヤ」が立川にもどってきたこと、とっても嬉しいですね!



おじゃましま〜す! [47]

パンの店 フェルマータ

店内のパンには「ご予約」の札がいっぱい。フェルマータのパンのおいしさを知る人は、売り切れ御免もよくご存知で、好きなパンを予約してお取り置きされています。おいしさの秘密はもちろん材料。上質の小麦粉、さらに上質のバター。



チョコクロワッサンと夫人のシナモンロール

でもそれだけではありません。「このパンは全部おいしい」とおっしゃるお客様にうかがうと、「なんといってもチーフの一生懸命さ」と。例えば流行りの「塩パン」ですが、試行錯誤の結果、他店とはちょっと違う生地で作っています。バターロールのような柔らかさでもない、フランスパンのような硬さでもない。でも外は冷めてもカリッとしていて、中はしっとりバターの香り。表面に飾られたシチリア島の天然海塩がアクセントになって、一口食べれば「ん!ここは違う」とわかるはず。一番人気の食パンは、小麦が香る密度の濃いもちり食感。3日間かけてバターシートから手作りのクロワッサンはサクサクなのにしっとりで、バラバラこぼれたパンくずもかき集めて食べたいくらい。食べきれずにカチカチになったフランスパンでも、フェルマータのパンだったら捨ててはいけません。おいしいスープを作ってダクさせれば、焼き立ての香ばしさが蘇って、それだけでごちそうです。手作りサンドイッチや、これもチーフが餡にこだわったあんぱんや、オリーブがたくさん入ったオリーブパンなどラインナップは60種類。おいしさを堪能してくださいね!

本当においしい!



〒185-0035
国分寺市西町5-36-7
TEL 042-534-3334
営業時間 7:00~19:00
(売り切れ次第終了)
定休日 日曜日、月曜日

表紙の人

中野賀代子さん、裕司さん、せつこさん、まきこさん、聖太さん

中野裕司氏は中武ビルディング株式会社の代表取締役。フロム中武の社長です。昔遊具のあった屋上で撮影させていただきました。「もう85なんですよ」とおっしゃるけれど、お人形のようにかわいらしい賀代子さん。裕司氏のお母さまで。桜子さんが撮影中もずっと寄り添っていらっしゃいました。桜子さんはお料理やファッションに関わる編集のお仕事をされています。道着は社長のもうひとつの顔、日本空手道中武館道場の館長を示すもの。もう40年も空手を続けています。松壽館流の道場はフロム中武の中にあり、奥様のせつこさんと聖太さんは指導員。せつこさんは空手を始めたら夢になってしまったのだとか。「体の動きはなめらかになるし、ダイエットにもいいし」と、説得力のあるお言葉。確かに若々しい!外に修行に出ている聖太さんも4年前にフロム中武に入社し、現在も空手と共に修行中。「フロム中武の社長ご一家なんですよ〜」と改めて聞きたくなるほど、気さくなご家族で、和やかな撮影となりました。

かたこと

◆この度の熊本地震で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げます◆先日、戦国武将の末裔による座談会を聴く機会がありました。徳川家、真田家、石田家、長宗我部家の現当主が揃ったトークでしたが、その中で「よくぞ生き残ってくれた」と先祖に感謝する言葉、「惜命報恩」という言葉がありました。生き長らえてこそ伝えられる、恩に報いることができるのだそうです。熊本地震で改めて黄色い本「東京防災」が見直されたそうですが、読んだだけでは命は守れません。「今やろう。災害から身を守る全てを。」とあるように、皆さまどうぞ実践で、尊い命を大切にされますように◆立川は緑や花がきれいな季節です。お散歩がてら、古民家園に移築された「須崎家内蔵」を見学するのもいいですね。江戸時代、庶民の木といえばクリとマツ。水に強いクリは線路の枕木などにも使われていました。江戸城にはヒノキやサワラを使い、中間層がケヤキやスギで、縦材にスギを、欄間などの横材にケヤキを使っていたのだとか。国文研の太田先生いわく「街道沿いにケヤキと蔵が並ぶって、ある意味やっぱりステイタスなんです。砂川の人たちの心意気を感じますね◆時空を超えて立川と語るのがえくてびあん。未来とも語りたいです。 えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん®

6月号 第34巻 通巻379号

平成28年6月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL http://www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
印刷 三浦印刷株式会社

無断転載を禁じます。



緑と花がきれいな 立川

立川がとてもきれいに装う季節です。ケヤキの緑色がだんだん深まって、あちこちから花が競って咲いています。4月、連休前の土日、サンサンロードでは「まち・こころ・花めかそう!春ステージ」ということで、花で飾られた中にオープンカフェが開催されていました。ファーマーズセンターみののれでは、緑化まつり。無料で野菜の苗が配布され多くの人が集まっています。個々の農家も頑張っています。西砂町の鈴木農園では、恒例のマルシェが始まりました。ゼルコバさんが北杜市に移転して初めてのマルシェ開催でしたが、おいしい野菜を求めお客様が並んでいました。当面は毎週火曜日と土曜日の13時から開催だそうです。



4月23日サンサンロードで



4月23日鈴木農園のマルシェで

今年も御衣黄がきれいです

毎年、諏訪神社の御手洗横にある御衣黄を掲載しています。ある時、「ここにも御衣黄咲いてますよ」という匿名メールをいただきました。何年も経ってから、そのメールの差出人はなんと立川市長だということがわかりました。詳しい場所を教えていただき、今年はその御衣黄を撮影。農林水産振興財団の敷地にある御衣黄です。



葉っぱと同じような緑色の花をつける御衣黄

多摩地域に隕石!

と言っても、現代の話ではありません。八王子の子ども科学館からご連絡をいただき、特別展「八王子隕石と小惑星探査機はやぶさ」に行ってきました。立川にある極地研からも、鉄隕石、石鉄隕石、石質隕石の3つの隕石が貸し出され展示されていました。これがまたとても面白い特別展で、1817年12月29日に落下した八王子隕石がいろいろな古文書に記されている! あちこちらの目撃情報や噂話がとても興味深いものでした。立川にも早く科学館ができて、こんな展示があったらもっともっと「科学の立川」になるのになと思いつながらの拝見でした。



八王子隕石 0.1g 球粒隕石

国立科学博物館 所蔵